

# ゆききのみち

日本古神  
道研究会

皇紀 二六六二年 五月 十二日 月次祭直会より

## 『 氣を読めば全て見える 』

今月は『氣を読めば全て見える』と題して、氣を読んで行くことによつて、様々なことが見え、人生を豊かに過ごすことができるといってお話をお届けします。

お話は一般的な車の運転に関するところからはじめて頂いていますが、後の対談も含めてそうした分かり易い例から人の生き方はどうあるべきか、最大の生き方をするにはどう考え生きていけばよいか、そして社会をどの様に発展させていくかといったことまで通ずるお教えを頂いております。

そして、「氣を読んでいくことによつて森羅万象のすべてが見える」という、まさに究極の極意といえることまでもお話し頂いております。お一人お一人がその深い意味をよく受け取り、神道の教えの素晴らしさを感じて頂きたいと思ひます。

## 全体の氣 を 読 む

師 何でもないようだけれども全体の氣を読まないといけないのです。色々な方と行事に出かけるけれども、例えば同じ高速度路で運転している時でも、道が「く」の字と反対になっている時に、追い越し車線でふかしている、特に上り坂などで

暑中お見舞い申し上げます

藤原 大津 士  
藤原 美津 子  
吉田 洋 子

若林 常次  
野村 エツコ  
貝津 良子  
野原 好美  
目黒 正彦  
日高 ひさ子  
宇佐美 輝洋  
北林 好子  
吉森 英次  
井上 智司  
貝津 貴雄

これをするのは、ある意味で愚の骨頂です。上り坂でしかも自分が外側を走るのだから、追い抜くことは出来にくい。

逆に「く」の字の時に追い越しをかければ、内側だからスツと抜ける。当たり前のことのようにだけれども、案外そういうことを教習所では教えてくれないから、一生懸命に外側を走っている時に抜こうとして抜けない。そういうケースを結構見かける。やはり外側と内側を比較したら、内側の方が短いのだから、内側になる時に追い越しをかければスツと抜ける。

## 全置き換えて

これは何も自動車のことばかりを言っているのではない。自動車の運転の話としてのみ聞いてみると、「なる程そうか」と感心はして下さるだろうけれども、単に運転技術の話としての

みで終わってしまう。大神様から、他の人の話のようであっても、『すべてわが身に置き換えて聞け』と言われていている訳ですから、①少なくとも自分自身のこと置き換えて聞くようにして欲しいし、②他の例に置き換えてみて欲しいのです。

そうすると、①自分自身のこと置き換えて聞くからこそ、次から運転する時にはこのことに気をつけて運転しようということになる。②それだけでなく、自分の今まで歩んできた人生そのものが、そうした外側を走り走って苦勞をしなくてよいところまで苦勞をしてきてはいないかという、これからの人生においての参考にもなる訳だし、経営者ならば尚更、会社の経営そのものが、そうしたことになってはいないか、部署毎にはどうか、個々の社員の行動に至るまで置き換えて聞くことができるのではないかと思う。

同じ話を聞いても、それをどう活かすかは、聞く人によって様々です。それをどう受け取るかは皆さんの自由であると共に、宝にするか、単なる屑とするかも皆さん次第なのです。

## 勝負は準備段階に

それと車線を変更して後にアクセルを踏んでいる人もいますね。車線を移ってからアクセルを踏むのだから、どうしてもその間は遅れます。自分が追い抜こうと思ったら、車線変更をする前にアクセルを踏んで加速しておけばそのままスツと追い越しができます。この点についても、皆さん自身に思い当たることはないでしょうか。試験期日になっていくら頑張ろうとしても、すべてはその前の準備期間にどれだけ準備したかが大切であって、当日では遅いのです。

この点は、選挙であろうと、戦さであろうと同じです。選挙期間に入った時には大半はもう決まっています。その前の準備期間が大切なのです。戦さにしても、例えば天下分け目の戦いと言われている関ヶ原の合戦にしても、日和見的な小早川軍の寝返りによって、東軍の勝利になったとは言え、そうした事は世の中には往往にしてありがちなことであり、事前の配備や策略が結果として現われるだけです。

最近その準備不足が露呈し皆さんに多大の迷惑をかけることになって信用を失墜した銀行さんもありましたね。ただ単に大きくなればいいというものでもないし、何時合併するかも自由に決定できたのですから、準備万端整ってからの合併開業とすべきだったと思います。そういう教習所では教えないけれども、体験上内回りになるところで追い越すとか、車線を変更する前にアクセルを踏んで行けばいいということがありますね。

## 先をどこまで見通すか

戻る時と同じです。一端エンジンブレーキにしてアクセルを踏むのを止めておいてからスツと入れれば何の問題もない。滑らかに入れます。アクセルを踏んだままで戻った時には、勢いがあり過ぎて前の遅い車とぶつかりそうになる。そういうことは教習所では教えてくれない。体験上でするしかない。

一般の道路を走る時でも、直前の信号だけを見て急ブレーキを掛ける方がいるけれども、ズーっとはるか先を見ていけば、この信号は越えられるとか赤になるとか自分のスピードをそれで調整すればいいわけですよ。自分が抜かれると思えばスツと行けばいいし、赤になるなど思えばゆっくり行けばいい。そうしたことに全然気付いていないで運転していると急ブレーキをかけなければならなくなる。だからどこまで先を見通すかです。

何でもないことだけれども、それが自分の人生にとって大きく影響をしているということに案外皆さんは気付いていない。要するに目の前のことしか考えない。多くの人がそういう人生を送っているのですね。碁とか将棋をする人は、何手先まで読むかということが大切なわけで、自分の人生の何手先まで読むかということが大事なのです。

この時期にどういふことがあるということが読めると、それを変えて、短期計画・中期計画・長期計画となるのです。それなのに皆さんは計画を立てるための計画をしているから、途中で狂ってしまつて意味がないのです。自分の人生そのものです。だから短期計画・中期計画・長期計画というのは、自分を長い目で見た中でこの時期までにこれをしようというのが長期計画であり、そのためには今すぐしなくてはならないものはこれだといふ

ものが短期計画ですよ。

## 時代の流れを掴む

例えば、会社を興すにしても、会社の中で新規事業を起こすとか新しいことをするにしても、まず時代の流れがよく見えていないといけない。自分がカーブの外側に居るときに、追越しをかけようとしても、それがそれだけの勝算のあることなのかどうか。きちんとした計画がなされているかどうか。

確たる勝算がない。あるいはしつかりした事業計画になっていくかという見極めがよくできていないことが多い。殊にいわゆるバブル景気の最中には、勝算があるかどうかよく考えずに、銀行もお金を貸せばよい・業績があがればよいという、わけのわからない中で融資をし、土地転がしや投機をしたりしましたね。そういう異常景気の、いわゆるバブルに乗って事業を起こした人は、殆どがバブルの崩壊とともに大損をしているでしょう。それは時代の流れの元がわからずに、単に大きな波がきたから「ソレーツ」とばかりに表面的に波に乗ろうとしたからです。きちんと時代の流れを大元から掴んでいけば、そういうことはほしくない。歴史を見ていけば、オランダでのチューリップの球根が家一軒より高かったなどという異常なバブル景気とその崩壊とがあるでしょう。そういういった事例をはじめとして、示唆してくれているもの、警鐘となりうるものはあるわけです。

そうした時代の流れを大元から掴む、より大きな時代の気を読むということができていけば、そんな異常とも言える、表面的な時代の流れに振り回されるのではなくて、逆によい面を活かして自分の事業に取り入れて社会に貢献することもできる。